

尾張旭市立白鳳小学校だより

令和7年5月号



白鳳点描

新緑の季節とあいさつ名人 どちらもさわやかです

校長 水野 夏子

風薫るさわやかな季節となりました。体育館横の3本の桜も若葉の緑が目に見え、さわやかです。

先日、子どもたちを学校まで送り迎えしてくださっている保護者の方々に「花壇の花がきれいでお癒されます」とおっしゃっていただきました。うれしい限りです。今は、図工の写生や理科の「春を見つける」学習にも役立っています。

さて、1年生の子どもたちも、少しずつ学校の生活を覚え、登校後に言われなくてもランドセルや水筒をしまうこともできるようになってきました。給食が始まったり、全校で避難訓練をしたり、学年下校をしたりと、初めてのことはばかりの4月でしたが、頑張っている姿にエールを送りたいと思います。休日には、楽しいお出掛けもよいのですが、疲れも出始める頃です。是非、休息する時間も設けてあげてください。

1学期の始業式や学校集会では、子どもたちに「あいさつ名人になってください」と話をしました。「あいさつ名人は、相手の顔を見てあいさつします」「あいさつ名人は、相手よりも先にあいさつします」「スペシャル名人は、にこっと笑顔であいさつします」の3つです。その後、朝の正門では、あいさつ名人が増えています。青空と、子どもたちの笑顔と、元気な声の3点セットは何物にも代えがたいものです。若者の間では、コミュカが高い、低いなどと言いますが、コミュニケーションの第一歩は「あいさつ」なのではないかと思います。私が新任だった頃、ある企業の人事担当者の話を聞くことができました。そして、数年前にも別の企業の人事担当者の話を聞く機会がありました。驚くことに、こんなに時代が変わっても、こんなに技術が進歩しても、どちらも「あいさつのできる人に来てほしい」と言うのです。企業で扱うソフトやプログラムは独自の物があるし、仕事の仕方は入社してから教えるので、それよりも先輩や指導者から教わることをまずは素直に受け入れ、分からないことや困ったことを相談できる人を求める、というわけです。言い換えると「人とコミュニケーションをとってやっていける人」を求めているように思いました。この意見に賛否両論あるとしても、私の中にとっても印象深く残っています。

子どもたちの元気なあいさつは、人の気持ちを明るくしたり、元気を与えたりするパワーがあります。子どもたちのさわやかなあいさつで、地域に子どもたちの応援団がますます増えていくとよいです。

末筆になりますが、学校公開やPTA総会にも大勢ご参加いただき、ありがとうございました。

